

## SMBC カップ第20回全国小学生タグラグビー大会視察報告

北海道ラグビーフットボール協会 普及育成委員会  
タグラグビー担当 原田 直樹

2024年（令和6年）2月24日（土）、25日（日）の2日間、埼玉県熊谷市にある熊谷ラグビー場にて「SMBC カップ第20回全国小学生タグラグビー大会」が開催されました。

前大会から大会フォーマットを変更し、いわゆるチャンピオンシップから交流会へ変更されたことで、ブロック大会代表24チームと、三地域協会が推薦する各地域2チームの計6チーム、合計30チームが一堂に会しました。初日はグループ戦を2～3試合、2日目はグループ戦を1～2試合と交流戦1試合を加えた各チーム計5試合を対戦することになりました。

日本協会 HP にもありますが、6コート全試合をライブ配信しています。

大会は、縦30m、横25mの良質な天然芝グラウンド6面でゲームが行われました。今年の北海道代表全国出場枠は例年同様2チーム。北海道ブロックのハイレベルな予選を勝ち抜いた札幌支部代表「北海道ハイテク ACA プリンセス」（以下、「ハイテク」）と北見支部代表「網走小ノースカムイ」（以下、「ノース」）が全国大会に出場しました。

今回も全試合でアフターマッチファンクションが行われました。指導者や観戦者に対してもゲームの勝敗以外のタグラグビーの価値を高める取り組みです。各レフリーが趣向を凝らして両チームの会話を引き出し、お互いに「自分の言葉で」発表し合ったあと、印象に残った選手に MIP カードをそれぞれ渡すなどして交流を深めました。



### <2月16日・チーム代表者会議>

大会前の夜に行われた代表者会議では、佐々木競技委員長から競技の流れの説明があり、森大会審判統括から「競技規則についての問い合わせ」への回答がありました。北海道協会としても度々アナウンスしていますが、楽しいゲームとは、①プレーヤーの心身の安全・安心が保証されていること、②正当な攻防が繰り広げられている（プレーの継続）ことが大前提となります。レフリーやマッチオフィシャルは、この楽しいゲームを成立させるために、①②の前提を阻害する事象に対してペナライズすることになります。ですから、理想の試合は、「プレーの開始と終わり、トライの時にだけ笛が鳴る試合」ということになります。

細かいメモや解説は、道普及育成委員会のレフリー部門と整理して、後日、みなさんにリリースしたいと思います。

そのほか、タグはしっかり挙上すること、見ていて元気で応援したくなるチームに石塚賞（元日本代表の炎のタックラー・故石塚武生さんの名を語り継ぐために設けられた賞）を用意していることが紹介されました。

一方で、プレーヤーの主体性を尊重する取り組みがなされていますから、選手や指導者の適切ではない声かけがないこと、観客席の保護者の皆さまにも同様に徹底してほしいとのことでした。

最後に、今年も「最もトライを多くとったチームに日本代表とのオンライン講習を提供する」SMBC賞（＝日本一ではないことに留意）が用意されていることが発表されました。

※※タグメモ※※（筆者の主観的なメモです。昨年度資料も含みます。参考までに）

#### 【レフリーの視点】

- ・タグの成立
- ・パスの成立
- ・タグコールはしっかりと発声してほしい！ レフリーは「手とコールを見ている」
- ・守備は、オンサイドプレーヤーのみが守備に参加できる。  
→レフリーは、オフサイドプレーヤーの位置と「さがる意思」を確認している。
- ・守備プレーヤーが、相手のタグ以外を触る（身体接触をしない。タグを取らずに身体を押さえたり、意図的ではなかったとしても服を引っ張ったりなど）と「アドバンテージ」を適用する。⇒相手の権利を尊重し合うことでゲームが成立する。
- ・ボールを持ったプレーヤーは狭いところに向っているかどうかを見ている。  
（危ないと思ったら相手を避けるか止まる。相手選手に圧力がかかっていたらほぼ「ペナルティ」の笛が鳴っていた。逆に圧力がない＝止まれていると、流している。）



※（再度引用）この画像では、狭いところに向っているボールキャリアが、黄色○の守備を避けるコースを取らなければならない。（アタックチャージ適用）

#### 【レフリーの立ち位置】～全国から18人を招集

- ・日本一を決める大会ではないので、子どもたちが安全に、楽しめるレフリングを意識している。
- ・出場チームと同じ地区のレフリーが試合の笛を吹くこともあるし、知っているレフリーが当たることもある。レフリー陣はそういうことを一切考えずに配置するので、チームもそのことを理解して一緒に楽しんでいただきたい。※道内の地域大会も同様の認識で進めていただきたいと思います。

## 【その他】

### ・オーバーステップの基準

(Q) 前進を止めて直ちにパスをすることとあるが、「直ちに」の時間的な基準は？

(A) 相手との接触や前進による地域の獲得（オフサイドラインの強引な押し上げ）がないことが前提で「違和感のない『なめらかな継続』ができていないか」が基準。

※「何秒」とか「何歩」とか特定の行為を指すことではない。

→本大会では、昨年度同様、パスモーションなしに「前に出たな」と感じるプレーはほぼ反則になっていました。

### ・ダウンボールという事象について（複数のレフリーへの聞き取り）

間違っって地面にボールを付けた場合、そのままプレーを継続させる地域もあれば、プレーをいったん止めて、タグ回数継続でフリーパスによる再開の地域もある。意図的なダウンボールは「パス」ではないのでNGという見解が多かった。事前に、レフリー同士で話し合っておくとよいと思います。

### ・ダミーパスへの見解

タグを取られたら「できるだけ早くパスしなければならない。」と競技規則にあるので、1～2モーション程度は猶予として見られているが、3モーションくらいになると「オーバーステップ」の判定をしていた。特に、ディフェンスが来ていて接触を誘発する動きに見えれば、直ちに笛が鳴るシーンもあった。

### ・判定について

「何か質問はありませんか？」とアフターマッチファンクションの後に選手に聞いているレフリーがいました。とても丁寧な方だと思いました。すべてのレフリーが完璧な判定をできるわけではありません。レフリーが質問の時間を用意してくれることで、「あの時のあのプレーはどうでしたか？」などと聞くのは「確認する」という意味では貴重な時間になると思いました。

### ・アドバンテージの基準

チーム的な利益 or 戦術的な利益が得られなかったら適用。アドバンテージを長めに取るような話もありましたが、概ね2～3タグが発生する間に笛が鳴るか、「アドバンテージオーバー」の声がかかっていました。

### ・ペナルティトライ

レフリーが、その行為がなければトライできたと思えば適用

<大会第1日目>※動画をぜひご覧ください。

ハイテク、ノース両チームとも前日のうちに東京・埼玉に入り、小雨の中、関東らしからぬ気温10℃以下の寒空で新品のシューズを泥まみれにしたと聞きます。



あいにく、初日も温度は低く、昨年に比べれば風が強くないのが唯一の救い。

全国大会でも帯同コーチのうち1名がタッチジャッジを担います。事前に合図等を確認しました。タッチラインを踏んだり出たりしたら、①旗を上げる、②上げたら下げない、③迷ったら上げない—とのアドバイスをいただきました。※空中にあるボールは判断に含まれません。出たかどうかの判断は身体の一部が触れたか出たかを見ます（昨年同様）。

「タッチ」とコールする方がレフリーもわかりやすく、いいほか、タグの受け渡しをしつかり確認することやタグが外れた選手には積極的に声をかけてほしいと伝えられました。

フリーパスの時は旗を上げずに、腕を水平に伸ばして5mラインを指し示し、整ったら下げるよう確認していました。

ハイテックはこの日は2試合のみ。初戦の東彩 ARROWS に将来トップリーグ入りしそうなスピード、体格を備えた選手がいて苦戦。2試合目は、作戦の一つであったダミーパスがほぼペナライズされたことでまたまた苦戦。2-2までシーソーゲームを繰り返したところで作戦変更。あっという間に点差を広げ快勝。適応力の高さに驚かされました。



ノースは多少の緊張がありながらも持ち前の元気で善戦。初戦は僅差で敗戦になってしまいましたが、「(試合内容は) 実質引き分け！」と気持ちを切り替えていたのはさすがというか (汗)。



2戦目は左右に動き相手を翻弄し全国1勝達成。3戦目はSMBC賞を獲得した鶴見鳳凰に食らいつくも、ミスの少なさで点差を広げられました。ディフェンスも固い相手から4点も取れたのはいい経験になったと思います。

## <大会第2日目>

前日には雪予報すら出ていたものの、なんとか霧雨で迎えた朝。大会事務局は早朝に試合間隔を5分短縮したタイムテーブル公表。慌ててSNSにアップ。

ハイテクはカメラのレンズ越しでもどんどん湧いて出てくるように選手が入れ替わり、



よく身体もボールも動いていました。寒い中、しっかり足が前に出る印象が強く、普段から体幹をしっかり鍛えているのだろうと、ここにきてよくわかりました。全員がよく声を出しているのも、ハイテクの強さの秘密かもしれません。

ノースは「せっかく来たから全試合やる！」と天に向かって意気込んだ結果、何とかすべての試合をすることができました。

昨日元気ななかったプレーヤーも積極的にボールに絡んで前に出ますが、寒さと雨でボールが手につかない場面も。「雷の呼吸」といわんばかりのランの鋭さが特に光った日でもありました。勝ち星は掴めなかったものの、試合を通して得たものは計り知れないものがあつたと思います。

ハイテクは3勝2敗、総得点23点、ノースは1勝4敗、総得点21点と善戦しました。

交流大会になって2年目。選手も関係者も楽しめる大会の意図が浸透してきた感があります。北海道のタグラグビー環境も同様に、選手もレフリーもみんな笑顔で楽しめる大会にしていきたいと思いました。

活躍された選手の皆様、引率されたチーム関係者の皆様、応援に駆け付けた保護者の皆様方のほか、北海道から声援を送ってくださった皆様に厚くお礼申し上げます。



## 【試合結果】

別添試合結果をご覧ください。

SMBC賞（最もトライをとったチーム）～鶴見鳳凰（神奈川県代表）

石塚賞（フェアプレー、友情（フレンドシップ）、ファイトの「3つのF」にふさわしいチームに贈られました）

グループ1：山形ラグビークラブナイツ

グループ2：曾於市立笠木小学校「笠木ドラゴンズ」

グループ3：小松ラグビースクール「小松イエローハッピーズ」

グループ4：日進レッドブラックス

グループ5：鶴見鳳凰

グループ6：京都市立伏見板橋小学校



大会本部から参加チームへ、「敢闘賞」が贈られました！



「SMB Cカップ 第20回全国小学生タグラグビー大会 全国大会」  
ライブ配信のお知らせ <https://www.rugby-japan.jp/news/52438>

■2月24日(土) ※13:30 頃より配信開始

- A コート <https://youtube.com/live/ZOQ5pMEtM6w>
- B コート <https://youtube.com/live/n7JpWsZJtPY>
- C コート <https://youtube.com/live/1n7kQ7V9YQg>
- D コート <https://youtube.com/live/7X7g3iCqXP>
- E コート <https://youtube.com/live/09sd4u1huWU>
- F コート <https://youtube.com/live/m3gVQsQIBAs>

■2月25日(日) ※9:50 頃より配信開始

- A コート <https://youtube.com/live/DmDGAZKh89U>
- B コート <https://youtube.com/live/DM1LlmbOKM4>
- C コート <https://youtube.com/live/yvXt0xlnanA>
- D コート <https://youtube.com/live/GZt4u7w1d1M>
- E コート <https://youtube.com/live/WYx63t8lyvA>
- F コート <https://youtube.com/live/l8TKaHdCM0g>